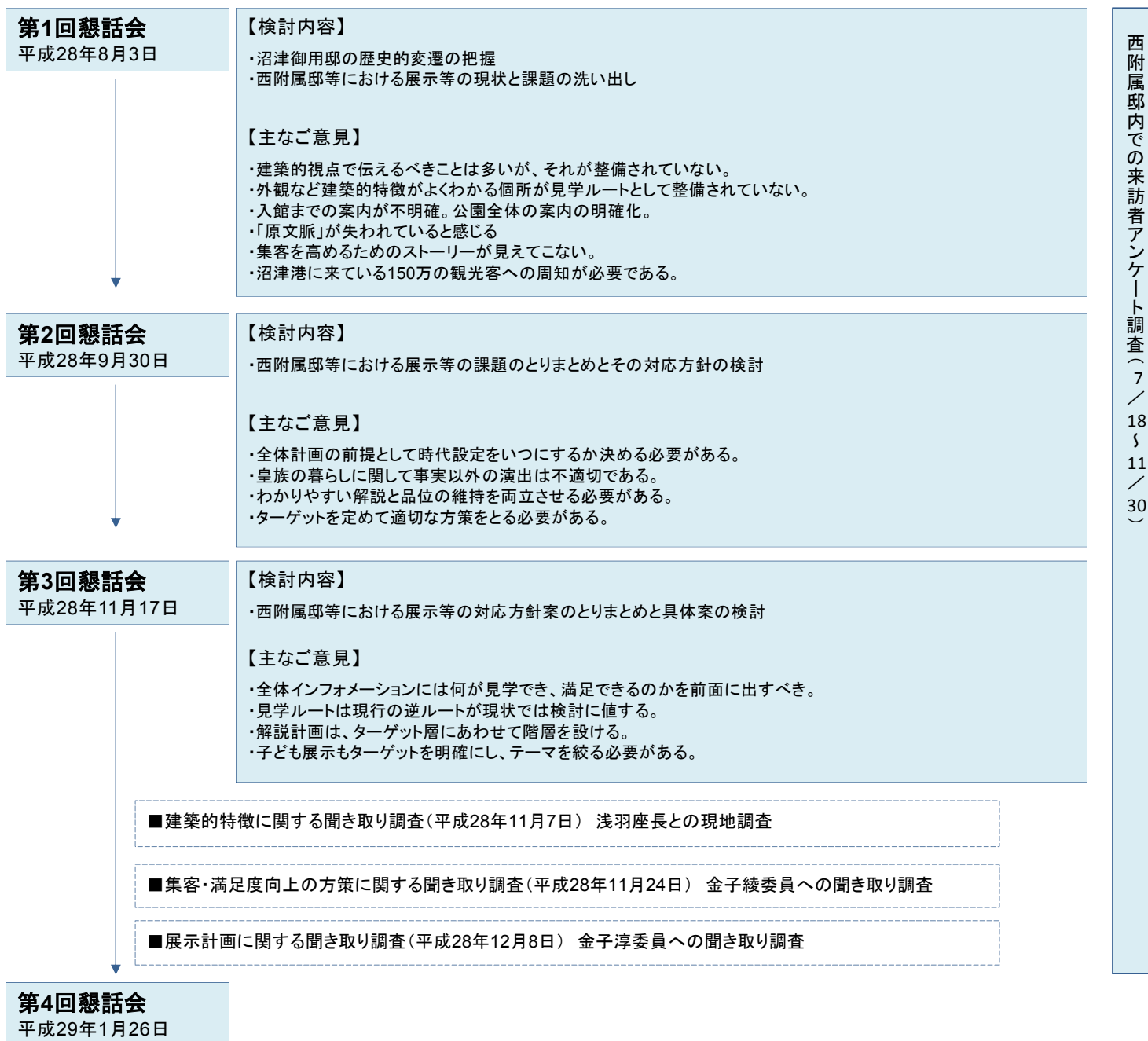


1. 懇話会の経過と概要



2.アンケート調査の結果

■実施概要

①調査項目

設問番号	項目
1	あなたの年齢を教えてください。
2	あなたの性別を教えてください。
3	当園に来園する前に訪問された場所をお答えください。
4	当園見学後に訪問する予定の場所を教えてください。
5	当園までの交通手段をお答えください。
6	当園へはどなたといらっしゃいましたか？
7	沼津市にはどれくらい滞在しますか？
8	当園のことはどのような方法で知りましたか？
9	当園への来園は何回目ですか？
10	今日の来園目的は何ですか？
11	当園で一番印象に残った場所はどこですか？
12	西附属邸で見学された方は、西附属邸で一番印象に残った場所はどこですか？
13	スタッフの対応はいかがでしたか？
14	その他、お気づきの点がありましたらご記入ください。

②調査方法と期間

西附属邸来館者のうち任意の記入。実施期間は平成28年7月18日(月)から11月30日(水)までの約4か月半。

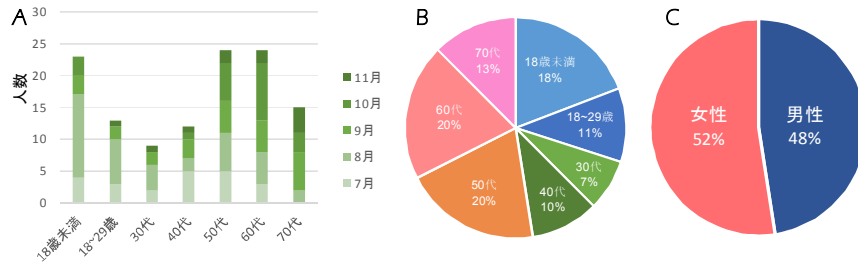
■調査の結果

①アンケート回答者内訳

アンケート集計数は120件。回答者の内訳を(図1-A, B)に示した。50代以降の来園者が半数以上を占めている。男女比に差はなく、男性女性どちらも約半数程度であった(図1-C)。

図1. アンケート回答者の内訳

A) アンケート回答者全120人の年齢層内訳。 B) 回答者の年齢層の割合。 C) 回答者の性別割合。



②アンケート調査の総論と対応策

アンケート調査の結果からわかる西附属邸の現状来園者像と、その対応策として考えられる方策は以下の通り。

- 約9割が初めての来園である。(図2)
→1回の見学で西附属邸の価値が伝わる、わかりやすい解説計画を行う必要がある。
→新規来園者をさらに増やすためにも、周辺観光地との連携が重要である。
- 2回以上(複数回)当園を訪れたことのある人は、初めての訪問の人に比べ、日帰りが多いことがわかる(日帰り可能な距離に在住している傾向がある)。(図3)
→日帰り圏内の人々に向けて、企画展示や多様なプログラムの周知を徹底させる必要がある。
- 来園者の多くが自宅や宿泊施設から直接当園を訪れた後、自宅・宿泊先に戻り、3割程度は近場の観光施設を訪れていると考えられる。(図4-A, B)
→訪問パターンの実態はさらに精査する必要があるが、近隣巨大観光地である沼津漁港からの来訪がまだまだ少ない実態であることから、沼津漁港でのインフォメーション強化をさらに検討する必要がある。
- 本施設を知ったきっかけは、「紹介」が約3割、「HP・SNS」と「テレビ」がほぼ同数の1.5割である。(図5)
→口コミやHP・SNSを意識した広報の重要性が考えられる。

図2. 来園回数

有効回答率 89%

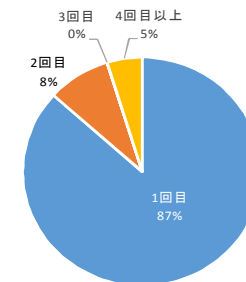


図3. 訪問回数別にみる訪問パターン

各項目※の人数(n)を100%としたときの当園への訪問パターンの割合。
※■日帰り(沼津市内) ■日帰り(県内) ■日帰り(県外) ■泊以上の旅行中の訪問

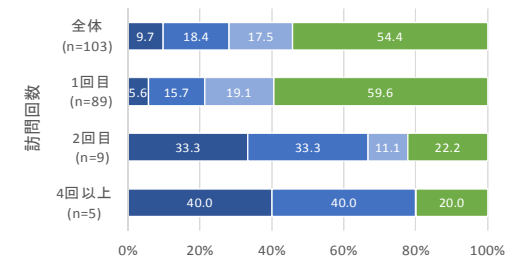


図4. 来園者の訪問パターン

A) 来園前の訪問場所。自宅(沼津市内・県内・県外)、宿泊先(市内・県内・県外)、観光施設に分類。
B) 来園後の訪問場所。自宅(沼津市内・県内・県外)、宿泊先(市内・県内・県外)、観光施設に分類。

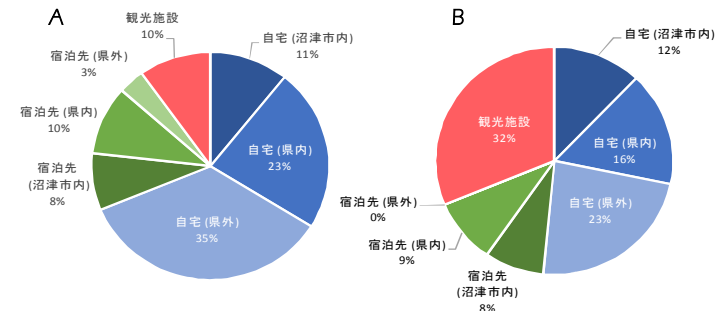
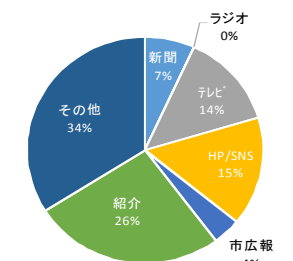


図5. 当園を知った方法

紹介: 家族・知人からの紹介。その他には、以前より知っていた、バス会社やガイドブック、偶然通りがかり、などが挙げられた。



3.全体改修方針と展示改修の考え方

【西附属邸全体の改修方針】

1. 西附属邸の魅力を引き出し、伝えるために西附属邸の価値を明確化する。
2. 品格と分かりやすさを備えた形で、西附属邸の原文脈を伝える。
3. 来園者の満足度を高め、集客力を向上させる。

【西附属邸の価値について】

● 建築的な価値 :

皇孫殿下(昭和天皇と秩父宮殿下)の養育係であった川村純義伯爵の邸宅としての別荘建築と、その後、増築を行った宮廷建築部分との各々の特徴的な建築様式を間近で見ることができる。

● 皇室を間近に感じる価値 :

謁見所や御座所などの設えから、御食堂、御料浴室などの生活の場まで見学することができ、普段見ることができない皇族の暮らしを間近に感じることができる貴重な施設である。

● 沼津の風土を実感できる価値 :

屋敷を囲む松林や海水浴場、温暖な気候など、皇室の方々の療養のための豊かな気候風土と、沼津の人びとと皇室の関わりを実感することができる場である。

【時代設定の考え方について】

● 西附属邸での皇族の方々などの暮らしの様子を原文脈として伝えるが、どの時代に焦点を当てるかは改修方針に関わるため、現状では以下のように考える。

● 全ての増築が完了した、大正11(1922)年を基準とする。

● 建物の設え、展示計画、解説計画全ての整備に関して、この時代設定を基準に再整備を行うものとする。

● 室名に関しては、大正13年頃の行啓資料に掲載された室名を基準として再整理し、この行啓資料に記載のないものについては、表示しないことを基本としつつ適宜検核のものとする。

【ターゲットの考え方について】

● 前頁の来園者の実態と、名勝指定を踏まえた今後増やしたい来園者を加味したうえで、以下の人々をターゲットに整備を行う。

- 御用邸に興味があり、見学時間がある人
(皇室や皇族の方々に関心が高く、御用邸見学が来訪目的の方)
- 次世代を担う子どもたち
(学校の社会科見学への対応と親子連れで来園する方)
- 沼津市内の中老年のグループ
(何度も来訪可能なエリアに在住し、好奇心の高い方)
- 団体客
(集団で移動し、見学時間が限定される方)
- 目的が限定的な来園者
(建築の専門家や夕日などの撮影会等、特定の目的で来園する方)

【展示改修の基本的な考え方】

建築の魅力を伝える

別荘建築、宮廷建築両方の特徴を併せ持つ西附属邸の建築的価値を解き明かす。

場の性格を伝える

皇室の方のご静養の場という御用邸の性格と、沼津の穏やかな気候や風光明媚な土地柄を紹介する。

人びとの息遣いを伝える

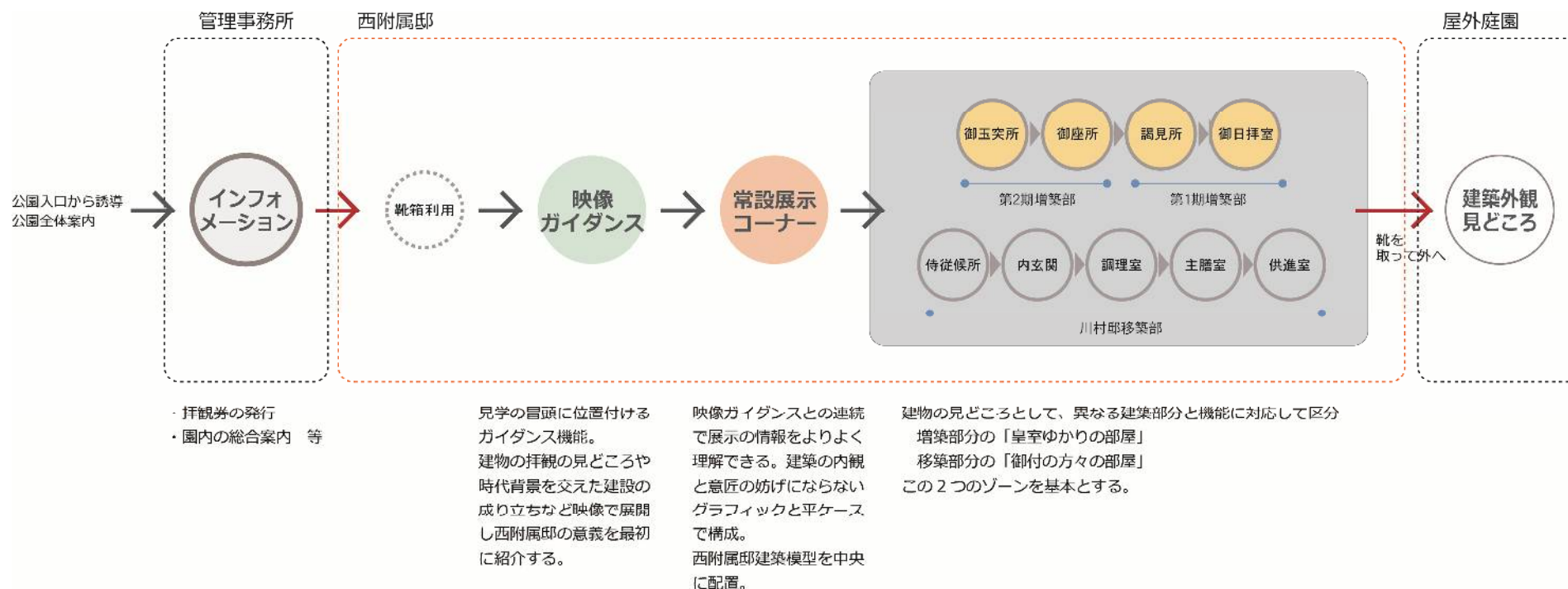
皇族の方々、川村伯爵、皇室の方々を支えた人びと、沼津の人びとなどがどのように過ごしたかがわかる。

子どもたちに価値を伝える

子どもたちに沼津御用邸、西附属邸の価値を伝え、歴史的文化的価値の素晴らしさを継承していく。

4.展示の構成-1

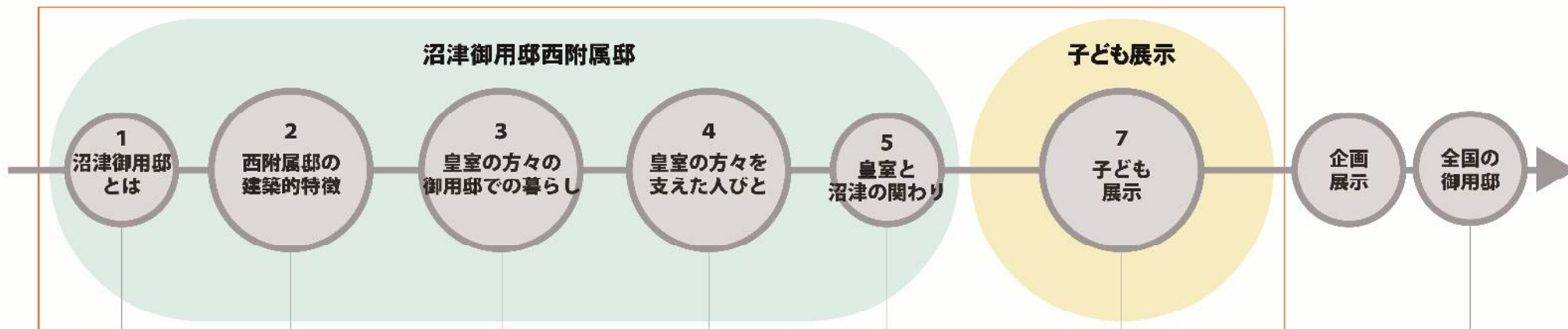
■西附属邸全体の展示シナリオ



4.展示の構成-2

■常設展示の展示シナリオ

常設展示コーナー



■テーマ例

- a. 沼津御用邸とは**
 ・沼津御用邸の沿革
 ・御用邸の役割
 (静養の場であり、公務の場でもある)
 ・沼津御用邸建物の移り変わり 等

- a. 西附属邸建築の移り変わり**
 ・西附属邸増築過程
b. 宮廷建築として
 ・宮廷建築の特徴
 ・沼津御用邸にみられる宮廷建築的特徴
 【資料:瓦、木組、金具等】

- c. 川村邸の建築として**
 ・別荘建築としての特徴
d. 川村伯爵と天皇家の関わり
 【資料:弔慰文】 等

- a. 御用邸での公務**
 ・沼津御用邸で生活した皇室の方々
 ・来訪者歴
 ・謁見室での仕事
b. 遊楽静養の地・沼津での生活
 ・昭和天皇・秩父宮のご幼少の頃の暮らし
 【資料:ご幼少時のアルバム、直筆の絵、ちゃんちゃんこ等】
 ・御用邸での体力づくり
 (運動場での様子・海水浴など)
 ・御用邸での遊戯
 (ビリヤード・クロックノールなど)
 ・沼津御用邸の水事情
 ・日誌から分かる暮らしの様子 等

- a. 身の回りのお世話役**
 ・侍従
 ・女官
 ・料理人
 【資料:トランク入り電気スタンド、献上品のテーブルクロス等の箱等】
b. 御用邸の管理役
 ・御用邸管理人
 ・宮大工 等

- a. 皇室と沼津の関わり**
 ・沼津への御用邸招致
 ・沼津御用邸を訪れた皇室の方々
 ・皇室の方々が愛した沼津の名所・旧跡・産品
 ・沼津の人々と皇室の方々の交流
 ・昭和天皇ご成婚翌日の沼津来訪
 ・沼津御用邸お別れの行幸啓 等

- a. 沼津と御用邸の関わり**
 ・御用邸ができた頃の沼津
 ・海水浴
 ・皇太子の学問所
b. 天皇陛下と皇室の方々
 ・天皇とは
 ・明治天皇からの系図
 ・大正天皇と昭和天皇と今上天皇
c. 天皇陛下の仕事
 ・国事行為
 ・行事・式典への出席
 ・福祉関係施設の訪問
 ・伝統文化の継承
 ・謁見とは

- d. 体験展示**
 ・建築的な体験アイテム
 (例) 木組み体験、瓦実物展示、土壁構造 等

- a. 周辺案内**
 ・市内の皇室関連ポイント
 ・明治時代の別荘
 ・市内観光地
b. 県内の御用邸
 ・須崎御用邸(現行)
 ・沼津御用邸
 ・熱海御用邸
 ・静岡御用邸
c. 全国の御用邸
 ・那須御用邸(現行)
 ・葉山御用邸(現行)
 ・日光田母沢御用邸
 ・神戸御用邸
 ・伊香保御用邸
 ・山内御用邸
 ・宮ノ下御用邸
 ・鎌倉御用邸
 ・小田原御用邸
 ・塩原御用邸

6.見学ルート案-2

■見学ルート案の検証

見学ルート	メリット	デメリット	動線面	建築見どころ面	展示面
A-1案 常設展示: 主膳室	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的各機能にゆとりがある。 ・映像ガイダンスが入口から離れており他の部屋への音の影響が少ない。 ・動線上の段差を認識しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・川村邸側から入るため、皇室ゾーンが後になる。 ・従来の見学動線と変わらない印象。 	△ 従来と変わらず動線の展開がわかりにくい	△ 建築の主たる見どころまで遠い	○ 周囲から目につきやすく広さもある
A-2案 常設展示: 警衛内舎人 ・女官応接	<ul style="list-style-type: none"> ・靴箱(運営員のいる所)から映像ガイダンスへの誘導が行いやすい。 ・見学案内の機能が集約されており比較的管理しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・靴箱と映像ガイダンスの部屋間で動線の錯綜が発生しやすい。 ・警衛内舎人・女官応接は、常設展示を展開するスペースとしては狭い。 	△ 従来と変わらず動線の展開がわかりにくい	△ 建築の主たる見どころまで遠い	× 奥行が無く狭さを感じるため、展示には不向き
B案 常設展示: 女官室	<ul style="list-style-type: none"> ・動線がスムーズで展開がわかりやすい。 ・動線の錯綜が少ない。 ・季節展示を常設展示の一部に集約。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反時計まわりの動線のため、建築移築部が動線の終わりとなり成り立ちとは逆の流れとなる。 ・段差が認識しにくく、御食堂と供進所間に滞留しやすい。 	○ 動線が分かりやすい。一筆書き動線となり、錯綜が少ない	○ 最初に見所から見学するため展開が分かりやすい	◎ 最も広い場所で外光の影響も少ないため、展示に向く

■見学ルートの設定方針

- 3つの案を比較検討の上懇話会の意見を踏まえて、計画案としてはB案の方向性を推奨する。
- 一方、「御座所から御食堂への廊下が狭い」という意見、「御食堂前の段差に気づきにくい」との指摘もあり、さらなる改善に向けての検討、及び現場での検証が必要となる。
- 団体向け動線については、基本的にはすべてを見学していただくことを前提に、「団体向けショート動線」を運営上の視点から引き続き検討を要する。

7.解説計画

■解説計画の基本的な考え方

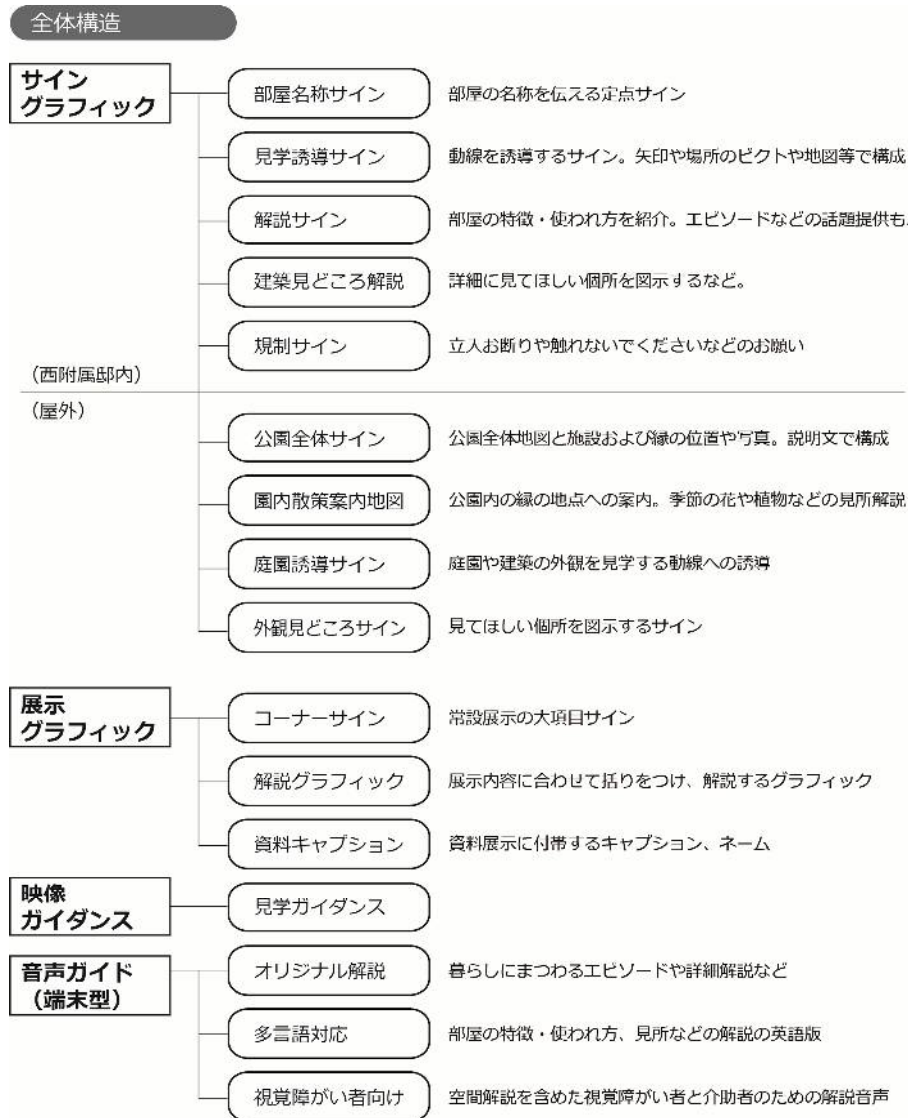
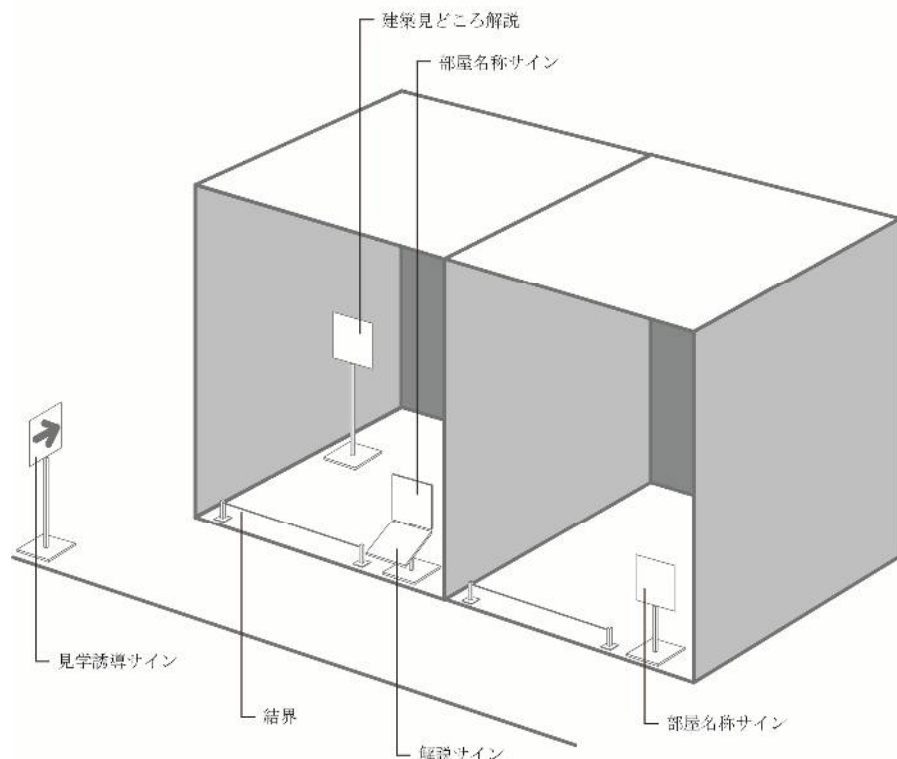
(1) 解説計画の検討

西附属邸展示において、解説計画は3つに区分される。

- 映像ガイダンスによる情報提供
- 見学動線での情報提供
- 常設展示室における情報提供

特に見学動線上の情報と常設展示室での情報提供は、解説内容と情報量、空間での具体的展開・手法を検討。

見学動線上のサイン展開案



8. 展示制作物の配置

ゾーニング・動線の策定と展示平面図

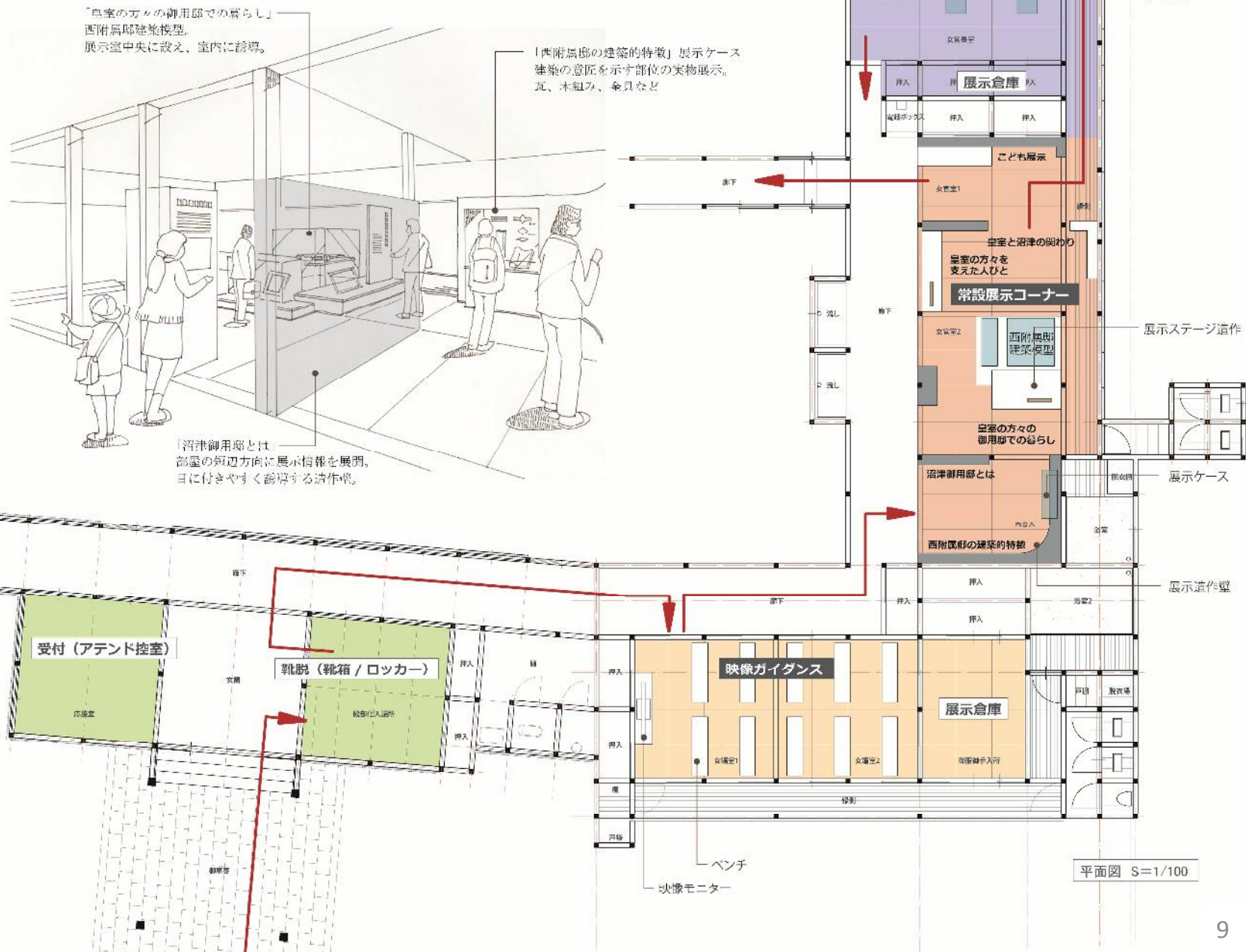
3つの案を比較検討の上懇話会の意見を踏まえて、

B案の方向性(反時計回り/女官室を常設展示室とする案)を推奨する。

展示室の条件

- ・動線上にて目に付きやすい。
- ・展示を展開するのに十分な広さ。
- ・建築内装の隠蔽を最小限とする。
- ・建築と展示の融合を図る。
- ・展示什器は置き型を基本とする。

* 右図は常設展示展開イメージ



9. 展示展開案-1

展示の具体的展開案の検討

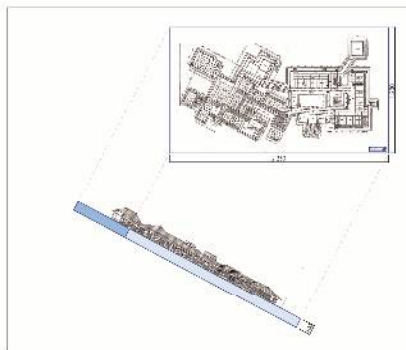
展示情報を伝えるためには、グラフィックのような視覚伝達を主とするメディアのほかに、立体的な手法を用いることが有効とされている。西附属邸における展示のコンセプトに相応しいメディアを検討する。

① 造形・模型 - 「皇室の方々の御用邸での暮らし」西附属邸建築模型

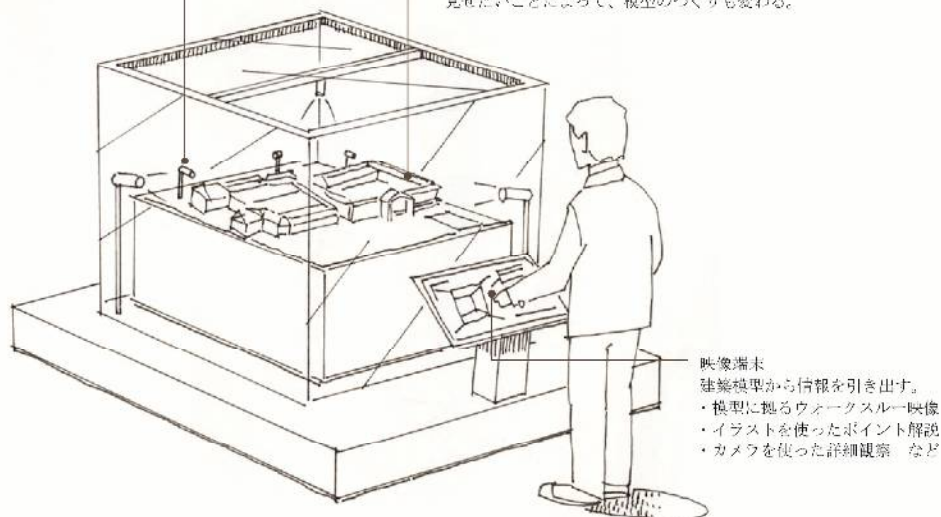
建築の魅力を引き出すための工夫として、西附属邸建築の成り立ちや全体像を建築模型を用いて分かりやすく伝える。また分かったことなどの研究の成果として制作することも、新たな展示室の意義を伝えることにつながる。

< 建築の具体的展開の項目例 >

- ・ 建築された時代性・様式・構造
- ・ 川村邸移築部と増築部の区分
- ・ 使われた建材や素材
- ・ 木組みなどの技法と職人
- ・ 内装品、絨毯、畳、調度品



内観を見せる建築模型(上図検討図)同取りを示すために屋根を取って見せることも。見せたいことによって、模型のつくりも変わる。



② 体験展示 - こども展示

近年資料館や博物館などの展示施設では、視覚伝達のみならず体験型の展示や実際に手に取って触ることのできる展示が増えている。本件でも建築や調度など、理解するための手法として積極的に取り入れるとともに、子ども展示の核をとる展示として位置付ける。

○ 西附属邸建築の木組みを知ろう
建築木組みの部分を触って確かめる。技巧が伝わるようにパズルにする。またどこに使われているかを解説する。

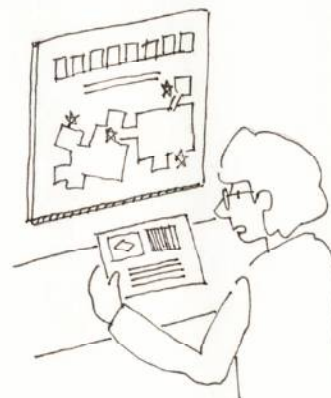
■ 技法や建材を知る体験(竹中大工道具館の例)

- ・ 丸太を組み合わせさせてみよう
- ・ 木組み体験
- ・ 材料を知る



○ 模様や動物を探そう
西附属邸の内装に見られる様々な模様やパターン、動物をあしらった金具(釘隠し等)など、どこにあるかクイズ形式で展開。

○ どこが違うか推測する
川村白直身部分と宮廷建築部分をデフォルメした模型を並べ、屋根の形状や床の高さなど、2つの息築の違いに気づきなせようかを推測するアイテム。手前に、ヒントとなる解説パネルなどを設置する。



9. 展示展開案-2

③ 映像による情報提供 (映像ガイダンスルーム)

常設展示の前に建築の概要や見どころを映像で展開する。見学の支援となる内容とする。同時に、いまここで見ることで見ることができない、四季の御用邸公園や周辺の情報なども折り込むコンテンツにより観光寄りの映像も見る事が出来る。

また、多言語対応も意識した内容を検討する。

<映像コンテンツ例>

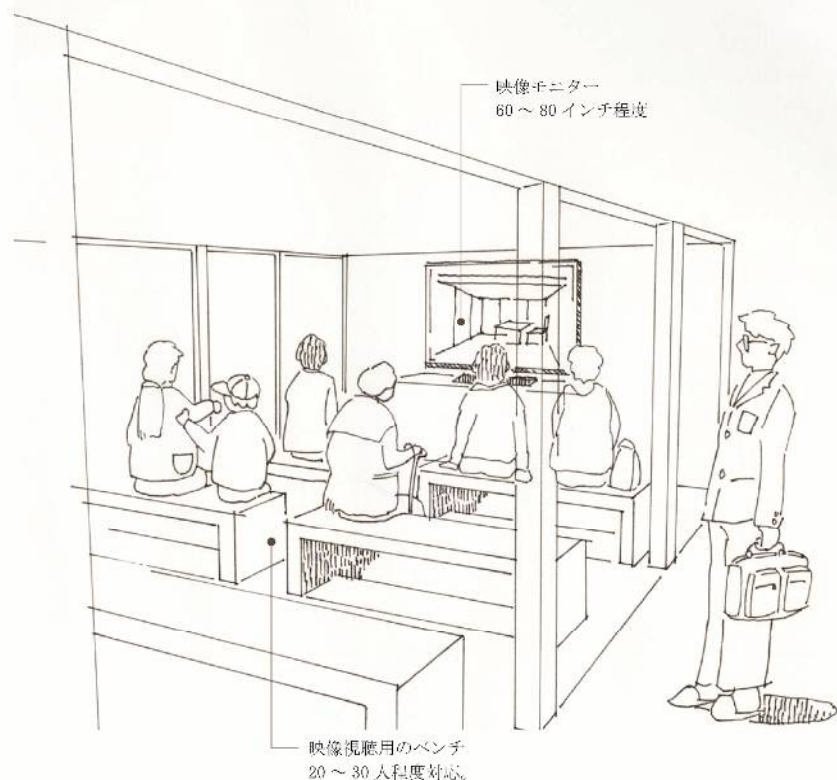
以下2本のプログラムを上映、センサー起動、各約3分程度

○ 四季折々の沼津御用邸

西附属邸庭園や御用邸公園に点在する皇室関連の見どころ、風光明媚な景勝地、園内の季節の花などを紹介。紹介にあたっては静岡県や沼津市出身のタレント・著名人などを起用することにより効果的な広報に寄与する。

○ 沼津御用邸の成立経緯と西附属邸建築の紹介

歴史的な経緯を伝えるとともに建築概要を見学動線に沿って紹介。
※邸内見学の難しい車椅子利用者への情報提供を兼ねる。



④ 情景再現 (展示エリア以外の居室での展開 / 参考)

場の意味やイメージを想起させるために、その状況を立体的に再現する展示手法。部屋の内部の時間 (年月日のみならず時間や季節など) を一瞬止めているかのような情景で鑑賞者を引き込む。一般的に歴史的建築物などを見学する際は、部屋の特徴やエピソードといった情報をグラフィック解説から読み解くだけでは、十分に理解できなかったり、印象に残りにくいことがある。

西附属邸の生活を感じるための工夫として、御付の方々の仕事など立体的に表現する手法も検討する。但し採用には、宮廷建築である建屋に敬意を払いつつ、品格を損ねない造形および情景の表現手法を考慮する。



■ 実際の居室に造形を配置して魅せる情景再現
上) 国宝・姫路城のなかの情景再現展示



■ 考証に基づいたつくり込みの情景再現
下) 国立民族学博物館・アイヌの屋内



左) 上記写真にある空間再現の状況を図版で解説。



■ 書棚の本や愛用品を配置した情景再現
上) 柳田國男隠居所の書斎再現



■ 食卓に配置した料理サンプルによる再現
上) 昭和天皇・都城島津邸

